

I 調査の概要

1 調査目的

近年、ニート、ひきこもり、不登校、発達障害など、複雑・深刻化した問題を抱える子ども・若者の存在が顕在化していることを踏まえ、子ども・若者一人ひとりの状況に応じた総合的・重層的な支援に取り組んでいく必要がある。

そこで、実際に各局面で困難を抱えている若者及びその家族の意識傾向及びニーズ等、そして県内の相談支援機関における支援の実態を把握する本調査を実施し、必要な支援のあり方を検討・実施する上での基礎資料とするものである。

2 調査対象・調査方法

(1) 15歳から39歳までの若者（学生を除く）及びその保護者等 …【A調査】

調査方法

① 県内の相談支援機関における調査票配布

若者本人及び保護者等 各400人

② 県内の県立高等学校を中退後、概ね2年以内の者に対する調査票送付

若者本人及び保護者等 各200人

※ 調査票の回収・集計は、NPO法人プラットフォームあおもりへの委託により行った。

(2) 県内の相談支援機関 …【B調査】

調査方法

相談支援機関に対する調査票配布

公的機関：31機関

※ 教育分野3機関、保健・医療・福祉分野9機関、矯正・更生保護分野7機関、
雇用分野3機関、総合相談等9機関

民間機関：10機関

(3) 県内の県立高等学校 …【C調査】

調査方法

高等学校に対する調査票配布（67校）

3 調査項目

(1) 15歳から39歳までの若者（学生を除く）及びその保護者等 …【A調査】

ア) 若者本人を対象とした調査

- ① 基礎的な項目
- ② 日常の生活状況・経緯等
- ③ これまでの仕事・就職活動等の状況
- ④ 職業・就職に関する考え方
- ⑤ 相談状況
- ⑥ 意見・要望等

イ) 保護者等を対象とした調査

- ① 基礎的な項目
- ② 若者本人の生活状況・経緯等
- ③ 若者本人の就職状況
- ④ 相談状況
- ⑤ 意見・要望等

(2) 県内の相談支援機関を対象とした調査 …【B調査】

- ① 相談窓口における相談件数及び相談内容
- ② 相談を受け付けた際の対応のながれ
- ③ 他の相談支援機関との連携状況
- ④ 相談者の状況
- ⑤ 相談対応を行う上での課題

(3) 県内の県立高等学校を対象とした調査 …【C調査】

- ① 不登校・中途退学に至る生徒・家族の状況
- ② 不登校・中途退学への対応を行う上での課題
- ③ 相談支援機関との連携状況
- ④ 生徒の自立支援を行う上での課題、行政への意見・要望等

4 調査時期

平成24年11月1日～平成25年2月8日

※ B調査のうち、県内の公的相談支援機関への調査は、平成24年7月に実施。

5 回収結果

(1) 15歳から39歳までの若者（学生を除く）及びその保護者等【A調査】

- ① 県内の相談支援機関における調査票配布分
若者本人：72人、保護者等 28人
- ② 県内の県立高等学校を中退後、概ね2年以内の者に対する調査票送付分
若者本人：21人、保護者等 18人

(2) 県内の相談支援機関【B調査】

公的機関：30機関

※ 教育分野3機関、保健・医療・福祉分野9機関、矯正・更生保護分野7機関、
雇用分野2機関、総合相談等9機関

民間機関：5機関

(3) 県内の県立高等学校【C調査】

64校